

平成27年度 村上市総合部 活動報告

部長 遠藤 優子

1 研究主題

郷土のよさについて体験を通して問題を追究する子どもを目指して

2 研究の概要

4月28日(火) 第1回 研修テーマ・活動計画立案

6月22日(月) 第2回 教材研究 蚕の教材化を考える～養蚕農家の見学を通して～

8月21日(金) 第3回 教材研究 郷土料理の教材化
～山北の食材を使った調理活動を通して～

3 研究の実際



(1) 第2回研修会

村上市朝日地区では、「総合」で養蚕をテーマに活動している学校がある。そこで、養蚕農家の見学をして、蚕の生態や飼育の上で大変なことを伺う研修会を計画した。最盛期には地域に数多くあった養蚕農家も、現在はわずかしが残っていないとのことであった。蚕の成長に合わせて、えさとなる桑の葉は無農薬のものを与えることや養蚕場の室温管理など、配慮すべきことが分かった。また、機械化によって近年は使われなくなった、手作りの「まぶし戸」など、珍しい道具を見せていただくことができた。実際に蚕に桑の葉を与える体験や、教材化に向けた貴重なお話を伺って、とても参考になった。



(2) 第3回研修会

村上市山北地区では、総合で地域の食材を使った伝統料理をテーマに活動している学校がある。そこで、農家レストラン「こころまい」の加藤様を講師に、地域食材を使った伝統料理を作る研修会を行った。

当日前半は、山北地域に伝わる「しそ巻き」と「冷や汁」の作り方を教えていただき、部員みんなで調理活動を行った。

当日後半は、各校の年間指導計画を参加人数分印刷して持ち寄り、各校の実践例を紹介し情報交換をした。また、指導上の悩みなどを出し合い、部員同士で助言したり、顧問に指導していただいたりした。各校の実践例や指導上の悩みを共有できたことは、自校での今後の活動に向け、大変有効であった。



4 成果と課題

実際に養蚕農家を見学する活動や地域の食材を使った調理活動を通して、地域素材を見直すことができた。教材化の視点を得るとともに、子ども同士がかかわり合いながら楽しく活動できることが分かった。

各校の取組についての情報交換や郷土のよさを実感できる体験研修会は、子どもたちの地域への愛着、引いては生き方につながるという意見が出された。今後も地域素材を大切に、教材化に生かしていきたい。



地域素材を生かし、各校がさらに魅力的な学習活動を展開するために、部員同士の研修、連携の機会を増やすことが今後の課題である。